



Cost Management Service 1-latest

コストデータの分析

Cost Management を使用して、クラウドとコンテナのコストを追跡する

Cost Management Service 1-latest コストデータの分析

Cost Management を使用して、クラウドとコンテナのコストを追跡する

法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

開始にあたって、次のセクションでは為替と有効使用量の計算に関する情報を提供します。

目次

はじめに	3
第1章 COST MANAGEMENT での為替の使用	4
第2章 コストモデルを使用した実効使用量の計算	5
第3章 クラスタおよびデータに関する情報の取得	7
3.1. クラスタに関する情報の取得	7
3.2. データに関する情報の取得	7
3.3. インテグレーションの一時停止または再開	8
第4章 コスト管理通知の設定	9
RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)	10

はじめに

Cost Management の使用を開始するには、コストデータを接続して Cost Management を設定する必要があります。詳細は、[Cost Management の設定方法](#) を参照してください。

第1章 COST MANAGEMENT での為替の使用

Cost Management は、デフォルトで米国ドル (USD) を使用します。ただし、Cost Management の通貨換算機能を使用して、現地通貨でコストの見積もりを実行できます。この機能は、[Red Hat Hybrid Cloud Console](#) とエクスポートされたコストレポートファイルの両方のコストを更新します。

Cost Management は、[ExchangeRate-API](#) からの最新データを使用して為替情報を毎日更新します。Cost Management の値には、外貨建て契約は反映されていません。

手順

1. [Red Hat Hybrid Cloud Console](#) から [Cost Management](#) に移動します。
2. `currency` ドロップダウンから、現地の通貨を選択します。

通貨を変更すると、Cost Management によりすべての値が最新の為替レートで自動的に更新されます。

第2章 コストモデルを使用した実効使用量の計算

クラウドプロバイダーは、全体的な使用量に関係なく、クラスターを実行するインフラストラクチャーコストを請求します。Cost Management で効果的な使用量を計算すると、直接的な使用量を考慮して、クラウドコストと Pod または namespace をより正確に関連付けることができます。

通常、Pod はクラスターに CPU やメモリーなどのリソースを要求します。クラスターは、要求されたリソースを最小限として予約しますが、Pod は最初に要求した量より多くまたは少なく使用する可能性があります。Cost Management における実効使用量のメトリクスでは、CPU またはメモリーのうち1時間あたりの使用量が大きい方が使用されます。

Cost Management でコストモデルを作成し、効果的な使用量を見積もることができます。最終的に、このデータを使用して、インフラストラクチャーのコストが OpenShift プロジェクトにどのように配分されるかを理解できます。

前提条件

- Cost Administrator または Cost Price List Administrator の権限を持つユーザーである。ユーザーロールの設定方法の詳細は、**Cost Management スタートガイドの [Cost Management リソースへのアクセス制限](#)** を参照してください。
- OpenShift クラスターを Cost Management データインテグレーションとして追加する必要がある。詳細は、**Cost Management スタートガイドの [Cost Management への OpenShift Container Platform データの統合](#)** を参照してください。

手順

1. [Red Hat Hybrid Cloud Console](#) にログインします。
2. **Services** メニューの **Spend Management** → **Cost Management** をクリックします。
3. Global Navigation で、**Cost Management** → **Settings** をクリックします。
4. **Cost Models** タブで **Create cost model** をクリックし、コストモデルウィザードを開きます。
5. コストモデルの名前と説明を入力し、インテグレーションタイプとして **OpenShift Container Platform** を選択します。 **Next** をクリックします。
6. 価格リストを作成して、使用量またはリクエストに料金を割り当てることができます。Cost Management サービスは、OpenShift からこれらのメトリクスを収集しますが、コストモデルを適用するまで Cost Management にアタッチされたコストはありません。
 - a. 実効 CPU 使用量を計算するための価格リストを作成するには、**Create rate** をクリックします。
 - i. 説明を追加します。この例では、**effective cpu usage** を入力します。
 - ii. **Metric** フィールドで **CPU** を選択します。
 - iii. **Measurement** フィールドで、**Effective-usage (core-hours)** を選択します。
 - iv. **Rate** フィールドに、CPU 使用量に対して支払うレートを入力します。この例では、**2** を入力します。**Create rate** をクリックします。
 - b. 実効メモリー使用量を計算するための価格リストを作成するには、**Create rate** をクリックします。

- i. 説明を追加します。この例では、**effective memory usage** を入力します。
 - ii. **Metric** フィールドで、**Memory** を選択します。
 - iii. **Measurement** フィールドで、**Effective-usage (GB-hours)** を選択します。
 - iv. **Rate** フィールドに、メモリー使用量に対して支払うレートを入力します。この例では、**1** を入力します。**Create rate** をクリックします。
7. **Next** をクリックします。
 8. (オプション) **Cost calculations** ページで、利潤または割引を適用して、インテグレーションの原価の計算方法を変更します。**原価** に利潤を追加すると、AWS アカウント、Azure サブスクリプション、またはその他のサポートコストの管理コストなど、オーバーヘッドコストを考慮できます。利潤は、メトリクスまたは使用状況で表示されないコストを補填する推定値です。
 9. **Cost distribution** ページで、**CPU** または **Memory** の配分タイプを選択します。配分タイプとは、プロジェクトコストの内訳のことで、CPU またはメモリーメトリクスに基づいてコストを配分します。クラスターのメモリー使用量が多い場合は、**Memory** を選択します。クラスターの CPU 使用量が多い場合は、**CPU** を選択します。**Next** をクリックします。
 10. コストモデルにインテグレーションを割り当てて、**Next** をクリックします。
 11. 詳細を確認し、**Create** をクリックします。
 12. インテグレーションのコストモデルの結果を確認するには、Global Navigation で、**Cost Management** → **OpenShift** をクリックします。
 13. プロジェクトを選択して結果を表示します。

第3章 クラスターおよびデータに関する情報の取得

Cost Management の **Cluster information** ページでは、インテグレーションのステータス、データ取得時間、各インテグレーションへのリンクなどの情報を表示できます。インテグレーションを一時停止および再開することもできます。

3.1. クラスターに関する情報の取得

1. **cost management > OpenShift** に移動します。
2. **Group by** ドロップダウンメニューで、**Cluster** を選択します。
3. 表示するクラスターを選択します。**OpenShift cluster details** ページが開きます。
4. ページの上部にあるハイパーリンク **Cluster information** をクリックします。

Cluster information ページには、次の情報が表示されます。

- **Cluster ID**
- **Cost Management operator version** および更新が利用可能な場合
- **Red Hat Integration** (クラスターのインテグレーション)
- **Cloud integration**

オンプレミスでクラスターを実行している場合、またはクラスターにクラウド統合を追加していない場合は、**Cloud integration** に値が表示されません。

3.2. データに関する情報の取得

1. **cost management > OpenShift** に移動します。
2. **Group by** ドロップダウンメニューで、**Cluster** を選択します。
3. 表示するクラスターを選択します。**OpenShift cluster details** ページが開きます。
4. ページの上部にあるハイパーリンク **Data details** をクリックします。

クラウドデータ、クラスターデータ、Cost Management データに関する詳細を示す 3 つのセクションがあります。

- **Cloud integration status** または **Red Hat integration status**
 - インテグレーションへのリンクを提供します。
- **Data availability**
 - **Cloud data** の場合、タイムスタンプは、Cost Management が利用可能なレポートを最後に確認した時刻を指します。
- **Data retrieval**
 - **Cloud data** の場合、タイムスタンプは Cost Management がクラウドプロバイダーからデータを取得した時刻を指します。

- **Cluster data** の場合、タイムスタンプは、Operator がデータをアップロードする Ingress サービスから Cost Management がデータを取得した時刻を指します。
- **Data processing**
 - このタイムスタンプは、Cost Management がレポートを展開し、データベースに格納し、API で利用できるようにした時刻を示します。
- **Data integration and finalization**
 - **Cost Management data** の場合、タイムスタンプは、Cost Management がクラウドからの生の課金データをクラスターメトリクスと相関させ、メトリクスに対してコストモデルレートを適用した時点を示します。

3.3. インテグレーションの一時停止または再開

1. console.redhat.com の **Settings** の **Integrations** セクションで、一時停止または再開するインテグレーションを選択します。
2. 一時停止または再開するインテグレーションの行で、最後にある 3 つの縦のドットのオプションボタンをクリックします。
3. サイドバーメニューで **OpenShift** をクリックします。
4. **Cloud integration status** の横にあるページ上部で、一時停止アイコンまたは緑色のチェックマークがあることを確認します。
5. **Data details** をクリックし、**Cloud integration status** に一時停止アイコンまたは緑色のチェックマークが表示されていることを確認します。

第4章 コスト管理通知の設定

[Red Hat Hybrid Cloud Console](#) 通知サービスは、コスト管理に関する潜在的な問題を自動的に警告できます。通知管理者は、[Red Hat Hybrid Cloud Console](#) の [Settings](#) ページの **Notifications** メニューから組織の通知を設定できます。

通知インテグレーションを設定するには、[Red Hat Hybrid Cloud Console](#) での[通知とインテグレーションの設定](#)に進みます。通知タイプを設定したら、[Red Hat Hybrid Cloud Console](#) で通知するイベントのタイプを選択します。Cost Management では、以下のタイプの通知イベントを作成できます。

利用可能状況

クラウドインテグレーションがデータの送信を停止しました。インテグレーションが正しく設定されていることを確認します。お使いのクラウドプロバイダーの Cost Management インテグレーションのドキュメントを参照してください。

OpenShift Container Platform のコストモデルがない

OpenShift Container Platform インテグレーションのコストモデルが設定されていません。組織のコストを正確に計算するには、OpenShift Container Platform インテグレーションのコストモデルを設定する必要があります。

Cost Management Operator の古いデータ

Cost Management Metrics Operator から受け取ったデータが古くなっています。Cost Management はこのデータを使用してインテグレーションのコストを計算します。このデータが古いと、Cost Management Service は組織の最新のコストが計算されません。

RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)

Red Hat ドキュメントに関するフィードバックをお寄せください。いただいたご要望に迅速に対応できるよう、できるだけ詳細にご記入ください。

前提条件

- Red Hat カスタマーポータルにログインしている。

手順

フィードバックを送信するには、以下の手順を実施します。

1. [Create Issue](#) にアクセスします。
2. **Summary** テキストボックスに、問題または機能拡張に関する説明を入力します。
3. **Description** テキストボックスに、問題または機能拡張のご要望に関する詳細を入力します。
4. **Reporter** テキストボックスに、お客様のお名前を入力します。
5. **Create** ボタンをクリックします。

これによりドキュメントに関するチケットが作成され、適切なドキュメントチームに転送されます。フィードバックをご提供いただきありがとうございました。